



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	今日的課題を含む授業における授業形態による効果の違いと意識変容についての考察：ワールドカフェ方式を中心に据えた授業の効果測定（プロジェクト研究）(fulltext)
Author(s)	杉森, 伸吉; 榎原, 智美; 齋藤, 大地; 朝蔭, 恵美子; 大塚, 啓太; 村上, 恭子; 青山, ひなよ; 前園, 美香
Citation	東京学芸大学附属学校研究紀要, 46: 23-30
Issue Date	2019-06
URL	http://hdl.handle.net/2309/151510
Publisher	東京学芸大学附属学校研究会
Rights	

今日的課題を含む授業における授業形態による効果の違いと意識変容についての考察

— ワールドカフェ方式を中心に据えた授業の効果測定 —

東京学芸大学	杉 森 伸 吉
附属世田谷中学校	栞 原 智 美
附属特別支援学校	齋 藤 大 地
附属世田谷小学校	朝 蔭 恵美子
東京大学大学院（博士課程）	大 塚 啓 太
附属世田谷中学校（司書）	村 上 恭 子
世田谷こころ保育園（園長）	青 山 ひなよ
船橋市立豊富高等学校	前 蘭 美 香

目 次

1. 1. 研究の目的（意義と目的）	24
1. 2. 研究の内容と計画	24
1. 3. 研究計画の履行状況	25
1. 4. 中学校授業実践	26
1. 5. 学校図書館との連携	28
1. 6. 特別支援学校授業実践	29

今日的課題を含む授業における授業形態による効果の違いと意識変容についての考察

— ワールドカフェ方式を中心に据えた授業の効果測定 —

東京学芸大学	杉 森 伸 吉
附属世田谷中学校	栞 原 智 美
附属特別支援学校	齋 藤 大 地
附属世田谷小学校	朝 蔭 恵美子
東京大学大学院（博士課程）	大 塚 啓 太
附属世田谷中学校（司書）	村 上 恭 子
世田谷こころ保育園（園長）	青 山 ひなよ
船橋市立豊富高等学校	前 蘭 美 香

1. 1. 研究の目的（意義と目的）

文部科学省が「現在の教育に関する主な課題」としてあげる教育の目標の実現の要素として、「青少年の自然体験」「読書活動」がある。子供の頃の様々な体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向にあるという国立青少年教育振興機構による平成27年8月「高校生の生活と意識に関する調査報告書」の調査結果がある。自然の中で活動し、友達と外で遊ぶ機会も減少している。協働体験が少なく、コミュニケーションをとる機会が減ってきている現状の中で育った園児・児童・生徒が、授業活動の中に自然に関連する事項や関連する事項を取り上げた時に、どのような意識を持ち、自分自身に引き寄せながら考えていくことが出来るのかを考察していきたい。自らの学習を深めながらこれからの将来に社会の中で実践を求められる可能性のある題材を取り上げたいと考える。近い将来、それぞれの町や職場のまとめ役として、リーダーとして、持続可能な社会の担い手としての児童・生徒を育てる、自らが社会を担っていくという意識を育てる授業となると考え、広がりのある価値ある題材として中山間地域を取り上げワールドカフェ方式での授業実践を試み、生徒の授業への参加意識および意識変容を明らかにすることは、カリキュラムの中での授業の位置付けを検討する時に重要になると考える。また、校種を変え、同様の授業形態がどのようにその行動を変えていくのかを明らかにすることは校種を超えた効果を記録したいと考えた。特別支援学校では「協働を意識」した授業形態として実践した。

また、生涯にわたり図書館を日常的に活用できる能力をつけることも公教育として大切であり、今回の学習の大きなポイントと考える。

1. 2. 研究の内容と計画

<内容>

ワールドカフェ方式の授業形態授業をし、その授業への生徒の取り組み方と意識の違いおよび授業効果について活動観察とアンケート分析により明らかにする。授業形態としてワールドカフェ方式を取り入れた授業にした場合、児童・生徒がどのような意識で学んでいくのかを初年度は中心に実施する。また、ワールドカフェ方式を取り入れるときに、情報をどのように与えていくのが効果的な授業になるのかを含めて考察し、今日的課題でもある「読書活動」を取り入れたい。それらを活動評価およびアンケートの分析により明らかにしたい。今回は特に授業の「学習形態」による効果を明らかにしていく。

「21世紀に必要とされる次世代型能力の学び」への関連性のある要素は何なのかを授業の中で検証する。ワー

ルドカフェ方式などの授業形態の効果を根拠を持って広く紹介することも内容の一つと考え、2018年度文科省学校図書館研究助成の報告会（2019年12月22日東京学芸大学）において授業実践の報告発表をした。東京学芸大学学校図書館運営専門委員会を2名（栗原、村上）をメンバーに加えて、「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」（以下 Web サイト）とリンクさせながら、授業実施をしている。また、一部（中山間地域についての附属世田谷中学校における実践）は日本環境教育学会2019年発行予定のテキストにワールドカフェ方式として掲載が予定されている。

今回実施したワールドカフェ方式授業の3つの特徴は、①自分の意見を言いやすい。カフェのようなリラックスできる空間で緊張しにくく、話しやすい環境で参加者が口を開きやすいという点。具体的には皆の前で発言するより、少人数なので発言しやすい、距離が近く、話を聞いてもらいやすいなどが挙げられる。②相手との繋がりを意識できる。否定される事はないので、尊重され、対話が活発になる効果がある。③参加者全員の意見や知識が共有できる。以上のことが、今回の授業でのポイントとなる。

<方法・年次計画>

「1年次」は東京学芸大学附属世田谷中学校と東京学芸大学附属特別支援学校において、ワールドカフェ方式で授業を行った。アンケートと活動観察を実施した。小学校と高校のアンケート作成と授業構想準備を行った。「2年次」は1年次の結果を踏まえて、小学校と高校で実施する予定である。アンケートと活動観察を実施する予定。「3年次」は1・2年次の結果を踏まえて、保育園で実施する予定。アンケートと活動観察を実施する予定である。なお、3年次は3年間のまとめを実施する計画である。

1. 3. 研究計画の履行状況

申請は2018年度が初年度であるが、2017年12月に附属世田谷中学校において4時間扱いの1年選択授業で今回の研究申請の形態の授業実践の試みをしている。（2017. 12. 12. 東京学芸大学附属世田谷中学校家庭科選択授業 学校図書館と家庭科室において実施。「ワールドカフェで考えよう！」）資料の質や話し合いの深め方を変えることで、小学生の「生活科」や中学生での「総合的な学習の時間」へのアレンジの可能も見えてきた。教員を目指す大学生の授業で大学生が自ら体験実施することで、ワールドカフェ方式の学習やジグソー的な学習を体験することが出来る授業紹介の実践も重ねたいと考えた。今後、他の教科学習や題材においての応用の可能性が示唆された。また、効率のよい大学生の学習教材となり得る形を精査していきたい。自ら情報を選択し、自分自身の学習を深めていく「自分との対話」を授業の中でも深めていくことのできる学習を大学生も模擬体験できる授業実践を試みている途中である。

<プレ実践2017年「ワールドカフェで考えよう！」授業の流れ>

i 「海士町を知る」

YouTube を使い、海士町の町長の話編、街の様子編を観て、資料を紹介しながら教員から島前高校の話や町中図書館の話を生徒の身近な話に結び付けながら話す。本と資料の紹介をして、本日の「調べ学習」「ワールドカフェ方式」「調理実習」の説明をする。学校図書館の中で自由に本や資料や物産を見ながら、気になったことをまとめていく。

ii ワールドカフェ方式で、物産を皆で食べながら、各班内で知ったことや気づいたことなどを発表する。班は4名×5班で実施。ジグソー的に席を移動して、1名のみ残りあとの3名はそれぞれ違う班へ移動する。それを繰り返す。

iii 全体的な感想を話し合う。全員が自由に移動しながら、模造紙のまとめを読む。

iv 同じ島根県にある邑南町という山に囲まれた町があることを伝え、邑南町のミルクジャムという物産を5種類

のレシピで各班とも違うレシピで1つ作り、5班で違うレシピのものをシェアして、邑南町について考えた。山に囲まれた邑南町についてどのような政策や考え方があるかを各自で海士町の学習をもとに考える活動を行った。地域の方々への手紙、提案という形で、自分の考えをまとめた。

効果測定については、2017年9月環境教育学会発表（榎原・大塚）の「学校教育における体験的総合学習の考察」～学習観尺度を用いた授業実践評価～をもとにアンケートを作成した。132枚の有効枚数、5件法で聞いた。「リラックスした雰囲気の中で授業をするのは好きである」は平均4.55、「班の仲間と自由に話し合いながら学ぶのは好きである」は平均4.31、「学習に必要な情報を資料から読み取るとは好きである」は平均3.37、「お茶を飲みながらの話し合いはいつもよりリラックスする効果があった」は平均4.10、「『模造紙』に書くことは効果的である」は平均4.19、「どのようなことも否定されないことで安心して発言できた」は平均3.79、「通常の授業よりも多く発信することができた」は平均3.83、「通常の授業では、あまり発言をしない友達の発言を聞くことが出来た」は平均3.60、「図書館で授業をすることは楽しい」は平均4.09、「家庭科で調理実習をすることは楽しい」は平均4.42、「『家庭科室で調理実習』したことはテーマを深めることにつながった」は平均3.72であった。

今後、これらの回答と自由記述を細かく検討して、3年間の授業の構成をブラッシュアップしていきたい。時間の配分の見直しを必要とする箇所も出てきた。

1. 4. 中学校授業実践

学習指導案2018年9月27日実施 第1学年 技術・家庭科（家庭分野）

家庭科 榎原 智美

授業学級1年 A, B, C, D 組（男子17名, 女子18名）

【題材名】 『ワールドカフェで海士町について考えよう！』

【概要】 新学習指導要領中学校家庭分野の目標では冒頭に「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ」とあるが、この視点は家庭分野で扱う全ての内容に共通する視点であり、相互に関わり合うものである。環境に関する内容においては「持続可能な社会の構築」の視点から物事を捉え、考察することが考えられる、とされている。今回取りあげた中山間地域とは、現在では、人口の減少と高齢化の進行により社会的共同生活の維持が困難になる可能性のある地域を指す時にも使われており、人口の減少と高齢化に伴う様々な課題を抱えている。このような中山間地域では、地域住民が当たり前の暮らしを送るために日用品を購入する小売店舗の数は減少の一途を辿っている。今後、さらに高齢化が進展していくことが予測されるなか、買物弱者が増大することは最早どの地域においても必定であろう。やがて深刻なフードデザート問題が生じてくることが予測されている。中山間地域の自立を前提とするならば、こうした課題への対応策を講じていくことが求められる。今回授業で取り上げた、海士町はこの中山間地域の区分に入れられながらも、先進的かつ柔軟な考え方で、中山間地域の未来形を想像できる特徴ある地域である。年間1,000人を超える視察があり、まさに多くの地域が海士町から学び取ろうとしている。

授業では手に入れた情報をもとに、自由に考え、その背景の事柄を想像し、日常につなげていくこと、更に他の人の考えを知ること、考えを広げていくことができ、自分や自分を取り巻く人々に思いを寄せ、地域や社会との関わりを考え、生活をよりよくしようと積極的に取り組む姿勢につながることを目指したい。東京学芸大学で提案しているコンピテンシーの態度・価値の中の、「他者に対する受容・共感・敬意、より良い社会への意識、好奇心・探究心」にあたる。

学習の結果、コミュニケーションをとる練習をすることに繋がり、東京学芸大学で提案している汎用スキルの、「協働する力、伝える力、感性・表現・創造の力」が育つと考える。実在する現在進行中の地域の施策を知ることで、より具体的で身近なものとして題材を捉えることができるようになる。一つの地域を多角的に、多方

面から自由に考えることでグローバル社会の適応力に繋がると考える。そのために、海士町は大変適した授業素材と考える。

1. 本時の目標

- ・ 中山間地域について自由な発想で考えることができる。
- ・ 考えたことを、自由に模造紙に表現できる。
- ・ 他の人の考えを知ることで、考えを広げていくことができる。
- ・ 背景の事柄を想像し、地域や社会との関わりを考え、生活をよりよくしようと考える機会を持つ。
- ・ 調理実習を通して、身近なものとしてとらえることができる。

2. 本時の位置づけ

本校カリキュラム1年次の生活の自立と衣食住「短時間簡単な技術で製作する『身近な衣服をリメイクする』」、2年次「健康的に食べる」の応用調理『エコクッキング』は、持続可能な社会を目指した考え方を意識して授業構成をしている。さらに「持続可能な社会を目指す」環境授業を広げて授業実践をしているところである。

新指導要領の指導計画作成上の配慮事項として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善がうたわれている。現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見だし課題を設定すること、他者と対話し協働する中で、自らの考えを明確にし、広げ深めることで質の高い深い学びにつなげることが重要である。持続可能な社会を目指した授業を軸にすることで、カリキュラム内の他の授業内容にも思考力、判断力、表現力が着く機会が増えると考ええる。

- ・ ワールドカフェで学ぶ中山間地域の再活性化「ワールドカフェで海士町について考えよう!」・2時間（本時）

3. 本時の主張

様々な見方や考え方に触れることで、自分を振り返り視野を広げ、深い学びに繋げることができる。普段、あまり発言しない生徒も、否定をされないワールドカフェ方式であるからこそ、「自分の生活へ」と広げ、自分自身の対話へと繋げることができる。多くのことに関心を広げ、社会について、自分事として考えるきっかけになる。

4. 本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価○
<p>1. 「海士町を知る」 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前配布、海士町高校生が書いた本「スギナの島留学日記」より、作成のプリントを読んでもくる。 ・ YouTube で、海士町の町長の話編、街の様子編を観る。 <p>(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本と資料の紹介をして、本日の「調べ学習」「ワールドカフェ方式」「調理実習」の説明をする。学校図書館の中で自由に本や資料や物産を見ながら、気になったことをまとめていく。 <p>2. 「ワールドカフェ方式で考える」 (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各班内で知ったことや気づいたことなどを発表する。班は4名×9班で実施。・模造紙に自由に記入 ・ ジグソー的に席を移動して、1名のみ残りあとの3名はそれぞれ違う班へ移動する。・模造紙に記入する。今まで出した意見の説明→自分の意見→他の人の意見（4人全員） ・ 移動した3名は元の班に戻り、他班についての情報を共有する。・模造紙に記入する。 <p>(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を紹介し、教員から島前高校の話や海士町の町中図書館の話を生徒の身近な話に結び付けながら話し、中山間地域および海士町に対する理解が深まるようにする。 ・ 本日の「ワールドカフェ方式」「調理実習」の授業全体の流れの説明時に、学校図書館の中で自由に本や資料を見ながら、気になったこと、わかったことを自由に模造紙に書くこと、が理解できるように伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段はお茶を飲めない学校図書館で、水筒のお茶を飲みながら、リラックスした雰囲気の中での実施を伝える。 <p>○各班1枚の模造紙に自由に記入する。（協力の場を設定：協働する力）</p> <p>○わかったことや感じたことは自由にすぐを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを、わかりやすく伝える工夫ができるように促す。（工夫して伝える場を設定：伝える力、問題発見、想像の場を設定：感性・表現・創造の力）・班内で発表。（元の班→移動先の班→元の班）

<p>3. 「調理実習」・同じ島根県の邑南町（山に囲まれた中山間地域）の説明。 (10分)</p> <p>・邑南町のミルクジャムが地域を助ける物産の一つになっていること知り、電子レンジ調理で各班で調理し、クラッカーとともに試食。 (30分)</p> <p>・地域を支える物産に思いを寄せ、日常の食品の作り方、おいしさ、材料などの大切さ・役割、経済面などを各自で振り返り、考える。</p> <p>・班内で全員発表。 ・自己評価とまとめをする。 (10分)</p>	<p>○これからもこの心地よい場所を守る、持続可能な社会のあり方に気持ちをよせることができるよう調理実習品のミルクジャムを通して、試食しながら班員で話し合う。(地域について考える場を設定：愛する心)</p> <p>(心地よい場所を考える場を設定：より良い社会への意識)</p> <p>○班内で発表（振り返りの場を設定：問題解決力へ繋げる力)</p> <p>○自己評価・まとめアンケートに記入。</p>
--	--

(文責：東京学芸大学附属世田谷中学校 栗原 智美)

1. 5. 学校図書館との連携

今回、ワールドカフェ方式での授業を行うにあたって、島根県隠岐郡海士町に関する資料を中心に、地域の活性化に向けた取組などを扱った資料を収集した。他にどのような使える資料があるかを知るために、以前より親交のあった海士町立図書館の司書 磯谷奈緒子さんに連絡を取った。磯谷さんからは、購入可能な書籍情報だけでなく、海士町に関する資料や、パンフレット類も送っていただいた。



授業では、生徒には事前に『スギナの島留学日記』（渡邊杉菜著 岩波ジュニア新書 2014）の中から読んでほしい箇所を教員が選び、資料として手渡した。そもそも中山間地域とはどういう場所を意味するのか、そのなかでも特色ある活動をしている海士町について知ってもらうには、中学生も読めるような資料が不可欠である。そこで各テーブルに、短時間で読める興味深い話題が掲載された以下の資料を準備した。

1	地方創生ビジネスの教科書 第10章島根県・海士町	増田寛也監修・解説	文藝春秋	2015
2	島の幸福を求めて住民参加でつくる総合振興計画		樫出版社	2010
3	子育てしたくなる市町村02 海士町	TURNS	第一プロGRESS	2017
4	新しい公民	浜島書店編集部	浜島書店	2012
5	「Iターン者」という言葉は不要（日刊事業構想）	内海直子	日本ビジネス出版	2017
6	第3期 海士町地域福祉活動計画 「生き生きと 死ねる島」へ		海士町社会福祉協議会	2015
7	ごはんのおかず（JALグループ機内誌）	山田やすよ	JALグループ	2013
8	島根県海士町のイカ（季刊うかたま）		農村漁村文化協会	2008
9	海士のカレンダー		海士町役場地産商課	2017
10	キセキ×隠岐		隠岐ユネスコ	

尚、展示書架には下記の資料も展示した。

あまのききがき Vol.1～4「島まるごと暮らし伝承館」運営委員会 巡りの環 2009／私たちの海士町 海士町教育委員会 1986

いろり火 海士町中央公民館・シルバー会議 1985／崎誌 崎郷土史研究会 1985

海士町景観計画 海士町環境整備課 2016／蘇婆訶梅 読本梅干 佐伎の里 2013

離島発生き残るための10の戦略 山内道雄 NHK出版 2007

未来を変えた島の学校 山内道雄 岩本悠 田中輝美 岩波書店 2015

僕たちは島で、未来を見ることにした 巡りの環 木楽舎 2012／美味しんぼ109巻 雁谷哲作 花咲アキラ 小学館 2012

コミュニティデザイン；人とつながるしくみ 山崎亮 学芸出版社 2011

ほくらのリノベーションまちづくり；ほしい暮らしは自分でつくる 嶋田洋平 日経BP社 2015

地域再生の罫；なぜ市民と地方は豊かになれないのか？ 久繁哲之介 ちくま新書 2010／

地元学をはじめよう 吉本哲郎 岩波ジュニア新書 2008 / 島根の逆襲 出川卓・出川通 言視舎 2012

「小商い」で自由にくらす；房総いすみのDIYな働き方 磯木淳寛 イカロス出版 2017

ぼくらは地方で幸せを見つける；ソトコト流ローカル再生論 指出一正 ポプラ新書 2016

隠岐；地球の歩き方 JAPAN 地球の歩き方編集室 ダイアモンド・ビッグ社 2017

パンフレット 海士らしく 海くらし Spring 2017 / OKI ISLAND Guide Map

(文責：東京学芸大学附属世田谷中学校 村上 恭子)

1. 6. 特別支援学校授業実践

1. 本校の「総合学習」

本校では平成5年より「総合学習」（一般名称は「総合的な学習の時間」）に取り組んできた。「総合学習」は「主体的に生きるために、自分をよりよく理解し、自らものごとを解決したり意思決定したりする方法を身に付けるための学習」の一つとして、中学部・高等部で設置されており、これまで方法知の獲得を重視した授業実践を重ねてきた。生徒達が主体的に活動し、内容知だけでなく方法知までを獲得するために、総合学習では「選ぶ」「調べる」「まとめる」「発表する」という4つの活動を重視している。しかし、高度な認知機能を必要とするこれらの4つの活動は、知的障害のある生徒にとって難しい場合が多い。例えば、これまでの総合学習の中では、“何となくテーマを選び（「選ぶ」活動に相当）、テーマに沿った本を見て（「調べる」活動に相当）、その一部を書き写し（「まとめる」活動に相当）、書かれた文章をそのまま読む（「発表する」活動に相当）という生徒の姿”は少なくなかった。

2. ワールドカフェ方式を取り入れた「総合学習」（平成30年度の授業実践）

前年度までの課題であった生徒の「協働的な学び」の姿を引き出すために、平成30年度はワールドカフェ方式を取り入れた総合学習の授業実践を行なった。今年度の総合学習の全体テーマは「お台場冒険隊！」であり、「校外学習」先として日本科学未来館を選択した、宇宙グループの授業実践について報告する。宇宙グループに所属する生徒は、中1が女子2名、中2が女子1名、中3が男子3名の合計6名であった。障害種はもちろんのこと、発達水準に関しても幅の広い6名であるが、全員が音声言語を用いてやりとりが可能であった。

授業の流れ i. テーマを選ぶ ii. テーマについて調べる iii -1. 校外学習（日本科学未来館）

日本科学未来館では基本的には6人全員で行動し、アシモが動く様子やプラネタリウムを見た。事前にアシモに関心があった生徒は、街でよく見かけるペッパーとアシモとの違い（ペッパーは歩けないけれどもアシモは歩けるなど）に関心を示し、テーマを「アシモとペッパーの違い」他の生徒は「宇宙での放射線の影響」「宇宙での生活」ということに関心を抱き、それをテーマに設定した。

iii -2. 校外学習の振り返り（ワールドカフェ方式）校外学習の翌日、校外学習でのそれぞれの学びを共有し、新たな気づきを得て欲しいとの願いから「ワールドカフェ方式」を取り入れた授業を実施した。一般的なワールドカフェ方式においては、一定の時間が経つと1名を残し他のメンバーが他の班へ移動するという流れであるが、本授業においては対象生徒が6名と少ないことから、全体を1つの班と考え、席の移動はしないこととした。授業では、まず一人一人が日本科学未来館のミュージアムショップで購入した宇宙食を紹介し、全種類を全員が食べることができるよう自分が購入した宇宙食をグループのメンバーに配る活動をした。授業はその後、iv. ポスターにまとめる、v. 劇として学習したことを発表する、という流れで実施した。iii -2. 校外学習の振り返り（ワールドカフェ方式）について考察する。今年度は生徒の「協働的な学び」の姿を多く引き出そうと、総合学習の授業の中で一人の生徒が発表しそれに対し周囲がコメントするという活動を設定した。しかし、この設

定ではどうしても生徒たちの雰囲気が硬くなってしまい、生徒同士の自然な対話は生まれなかった。もちろん、発表を静かに聞く中で発表の内容を理解し自分の中で考えを広げている生徒もいたであろう。しかし、声を発し対話をするすることで、発表者との一対一の関係から一対多の関係へと広がり、集団としての学びがより深まるのではないかと考えた。そういった観点から、ワールドカフェ方式をみると、集団としての雰囲気が非常にリラックスなものになったことで、生徒同士の自然な対話が生まれたのだと考える。そして、対話の中で明らかに学びを深めている生徒の様子も見られ、本校が定義する「協働的な学び」の姿を引き出すことができたのではないだろうか。さらに、今回このような生徒たちの姿を引き出すことができた要因として考えられるのが、校外学習という共通の体験と個々の異なる興味・関心、集団性の高まりである。以上のことから、特別支援学校においても様々な環境設定を行なった上でワールドカフェ方式を授業に活用することは、生徒の「協働的な学び」を引き出すのに有効であることが示唆された。

(文責：東京学芸大学附属特別支援学校 齋藤 大地)